

❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁
メールニュース12月号 理研バイオリソースセンター実験植物開発室
❁□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁□■□■□■□❁

2016. 12. 21

このメールは、最近リソースの請求をされた方、技術研修に参加された方、及び展示会等にて実験植物開発室からのメールニュースを希望された方を対象に送信しています。配信不要の方はお手数ですが plant@brc.riken.jp までご連絡ください。

-----● 年末年始の業務のご案内 ●-----

12月29日（木）～1月3日（火）休業

1月4日（水）通常業務

本年も皆様のご理解とご協力に支えられました。誠にありがとうございました。2017年が皆様にとってますます飛躍の年になることを室員一同お祈り申し上げます。

-----● 植物培養細胞株のご提供について ●-----

予算締切りの都合で、発送に関するご要望をいただく機会が年度末に増えます。とりわけ寒天培地上で維持する細胞株（カルス）は増殖速度が遅く、提供準備に時間を要します。時間的な余裕をもって事前にご相談なさることをお勧めします。

---● テクニカルサポート（No. 22）：再分化能を持つ植物培養細胞について●-----

添加した培地上で適切な植物組織を培養すると脱分化した培養細胞になり、さらに植物ホルモンの濃度を調整すると植物個体や器官を再生します。しかし、再分化能はずっと維持されるわけではありません。培養期間が長くなるにつれて、失われていきます。

実験植物開発室が提供する細胞株のうち、ニンジンの kurodagosun 株（rpc00002）とミナトカモジグサの embryogenic callus（rpc10001）は再分化能を持つ培養細胞です。この二つの株は、再分化能の高い培養細胞を提供するため一定期間ごとに新しく誘導しております。植物個体を再分化させる場合には、ニンジンは提供後半年、ミナトカモジグサは一ヶ月以内程度で使うことを勧めています。

再分化能の高い培養細胞を作るためには、培養に適した良い材料を選ぶことが大切です。ミナトカモジグサの場合は小さい未熟胚を使いますので、材料の準備がとても大変です。実験植物開発室が提供する embryogenic callus を使えば、準備にかかる手間や時間を省いてすぐに実験することができます。熟練した専門の技術員の作るミナトカモジグサの embryogenic callus が研究のお役にたつことを願っております。

ちなみに、ニンジンとミナトカモジグサ以外の細胞株は再分化能を失った培養細胞です。植物ホルモンの濃度を変えても再分化することはありません。培養細胞を一層活用するために、動物の iPS 細胞のように遺伝子を制御して分化全能性をよみがえらせる技術の開発が期待されます。

❀*:. ' ° ❀ ° ' . : * : . 。 ❀ . : * : . ' ° ❀ 。 . : * : . . : * ❀

理化学研究所バイオリソースセンター

実験植物開発室 提供係

〒305-0074 茨城県つくば市高野台3-1-1

TEL 029-836-9067/FAX 029-836-9053

MAIL plant@brc.riken.jp

HP <http://epd.brc.riken.jp/>

❀*:. ' ° ❀ ° ' . : * : . 。 ❀ . : * : . ' ° ❀ 。 . : * : . . : * ❀